

= 人事を尽くし =

自民党総裁選が終わった。「人事を尽くして天命を待つ」という言葉がある。「人事を尽くして」の人事とは、人間の力で出来る事柄。「人事を尽くす」とは、自分の力でやれることをすべてやるという意味。自分の全力をかけて努力をしたら、その後は静かに天命に任せるといふことで、事の成否は人知を超えたところにあるのだから、どんな結果になろうとも悔いはないという心境のとえらしいが…。

総裁選の期間、公開討論等を通じ、自民党党员のみならず、国民に向けてテレビやSNSを通じて懸命にアピールする四人の候補者の姿が映し出された。新型コロナ対策、暮らしと経済、エネルギー問題や安全保障など、それぞれの政策を論じ合っていたが、そもそも与党、そして自民党の中核にいる方々だけに、それ今？これまでもやろうと思えばやれたんじゃないの、と思ったのは私だけではないだろう。

彼らは、何のために、どこに向かって人事を尽くしてきたのだろうか。立場は違うが、新総裁はもとより、同じ方向を見ながら論議してきた彼らの具体策の提示とその実践を楽しみにしていきたい。

ところで、人事は人事でも、人の異動に関わる話を少し。この秋は労働組合の多くが役員改選の時期にあたる。基幹労連の加盟組合・構成組織においても労働運動に打ち込んできた仲間たちが卒業していった。

長きにわたり家族と離れ単身赴任を続けながら、しかも新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2年近くも帰省がかなわぬ中で重責を全うした仲間、突然に降りかかった内部課題に真正面から向き合い、組織の理解活動に奔走し、すべて整理し職場に戻った仲間。組合運動の期間こそ違え、厳しい時勢には互いに手を差し伸べ団結し、どんなときにも笑顔絶やさぬ精神でみんなを引っ張ってきたリーダーたちである。

与えられた使命と役割のもと懸命に走り続け、次代に引き継ぐ、まさに「人事を尽くして…」きた。その後輩たちが新執行部となって新たなスタートを切る。そうした思いの詰まった大会に許される範囲で出席している。その道中に利用した電車やバス、タクシーの車窓から見える彼岸花。そういえば、コロナ禍もあり、長いこと妻の実家もわが実家の仏さまにも会いに帰ってないな一と思いつつ、亡くなった母や父、義母を思い浮かべながら真っ赤に咲くその花を目で追った。

彼岸という言葉はもともと仏教の言葉であり、煩悩を脱した悟りの境地のことを指すという。煩悩とは、承知のとおり、心身を悩ませ乱し、煩わせ、汚す、悟りの境地を妨げるもの。彼岸とは、「煩悩の迷いから脱した仏様の世界・すなわち極楽」と浄土真宗の教えにある。まあ、煩悩を捨て去り無の境地に立てるはずもない、誰かの言葉を借りれば、人間だもの…。だが、煩悩を捨て去ることは無理でも、心を合わせ、力を合わせることで苦境を乗り越えることができるということを私たちは誰よりも知っている。共に助け合い・共に支え合う労働運動と言う絆は、私たちの大きな宝である。

私たちの運動は、人が代わろうとめざすべき目的は変わらない、幸せづくりの好循環運動もしかり。その道筋を確かなものとするために、政策実現活動がある。各組合の大会に、時に対面で、時にWEBで「村田きょうこ」が駆けまわっている。役員の方々とともに、第一線の仲間の心をつかむために。ともに人事を尽くし……。ただ忘れてならないことは、天命は待たず。勝つのは私たちの熱意と努力、その結果でつかみ取るしかない。

ご安全に

2021年10月1日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一